

学校経営方針

～心・体 元気な学校をめざして～

大田区立松仙小学校
校長 荻間 秀浩

1 学校経営の基本理念

本校は、今年度創立69年目を迎える。開校以来今日まで、子供・保護者・地域社会と共に着実に築き上げてきた歴史と伝統を大切に、未来の社会を生きる子供中心の教育を基盤に、社会の変化に柔軟に対応した、創造性に富んだ学校経営を進めていく。基礎・基本の定着、思考力・判断力・表現力の育成を図るとともに、生涯にわたって学びに向かう力を培い、心豊かで国際性を備えた実践力をもつ子供の育成を目指して教育活動を展開する。都や区の教育目標・ビジョンを踏まえ、「健康・安全・人権なくして教育なし」という考えの基、児童・保護者・地域・教職員から「友達と楽しく夢中になれる、学び甲斐のある学校」「期待できる、通わせ甲斐のある学校」「同僚と切磋琢磨し、働き甲斐のある学校」と評されるような、実践と研究・研修を積み重ね、自信と誇りをもってその教育活動を推進する学校づくりを基本理念とする。

2 学校教育目標

☆じょうぶな子ども（体） ○よく考える子ども（知） ○思いやりのある子ども（徳）

3 学校経営の基本方針

人は、心も体も元気でなければ生活に、学習に、仕事に前向きな気持ちで臨むことはできない。日々の学校生活の中で、児童も教職員も心・体共に元気な毎日を過ごせるようにしていく。

目指す学校像（「あいうえおの学校」づくり）

あいさついっぱい学校

人との繋がりは、気持ちのよい挨拶から生まれる。児童が人としての礼儀をわきまえ、より良い人間関係を築く第一歩となる挨拶を重視する学校にしたい。

うんどう大好きな学校

生涯にわたって運動に親しむ素地は、幼少期に体を動かす心地よさや楽しさを知ることから始まる。スポーツだけでなく、体を動かして遊ぶ体験を多くできる学校にしたい。

えがおがいっぱい学校

学習における「できた」「わかった」「やりとげた」時にみられる自然な笑顔がたくさん学校にしたい。

おもいやりいっぱい学校

すべての児童が安心して学校生活を送れるよう、教職員が模範となり、全教育活動を通して心を育て、思いやりのある学校をつくりたい。

日々の教育活動を通して実践していくことで、これらの目指す学校像の実現を図りながら、学校教育目標に迫っていく。

(1) あいさついっぱいの学校 (あいさつ100%の学校)

- 各学級におけるあいさつや返事の指導を重視し、自分からすすんであいさつのできる子・返事のしっかりできる子を育てる。

(子供同士、教職員や来校者に対してもすすんで挨拶できる子に)

- 児童会活動におけるあいさつ運動やあいさつリーダーの育成を通し、あかるく、いつでも、さきに、つづけてあいさつできる習慣を身につける。
- あいさつアンケートを実施し、自分のあいさつ習慣を振り返ると共に実践意欲を育てる。
- 毎朝、校門において子供たちを迎えると共に管理職・教員も進んであいさつを行う。
- ホームページや学校だより等であいさつ運動について伝えると共に家庭や地域におけるあいさつ習慣の意識を高めていく。
- 保護者・地域によるアンケートにおいてあいさつ運動の実践について振り返る機会をもつ。

(2) うんどう大好きな学校

- 体育学習の充実 (校内研究の充実)

・校内研究を「友達と高め合う児童の育成～できた・見方・伝え方の学習を通して～」とし、体育学習のさらなる充実を図る。

- ① できたと感じることをするための工夫
- ② 自他の運動の見方を知るための工夫
- ③ 友達と運動の様子を伝え合うための工夫

の3つの工夫を通して児童が生涯にわたって運動に親しむ素地を育成していく。

松仙体育スタンダードに沿った授業展開・体育黒板の活用、学習カード、場の設定、学習の流れの掲示 体育教具の工夫等

- 体育的活動の充実 日常の学校生活における体育的活動を意図的・計画的に実施する。

松仙タイムの充実 (月1回)・昼休み25分間の確保・校内運動環境の整備

- 1校1取組の実践 (長縄跳び・短縄跳び)
- 1学級1取組の実践 (各学年・学級における実践：長縄跳び・短縄跳び・クラス遊び等)
- 体力テストの実施=>結果の分析・考察=>それに基づく取組の実施

(3) えがおがいっぱいの学校

- 学習規律の確立・徹底 (松仙小スタンダード学習面の確実な定着)
- 日々の教材研究・研修に努め、基礎的・基本的な学力の定着を図り、児童が「できた」「わかった」と感じる授業づくりをする。
- 児童自ら課題を掴み、個人・小グループ・全体で対話的・協働的な学習を展開し、児童が主体的に学習に取り組めるようにしていく。また、児童の考えを引き出す発問・指示、児童たちが共に課題を解決していく活動や板書の工夫、ノートづくりに努める。(主体的・対話的で深い学びの追求)
- 各教科においてクロムブックを使った効果的な活用法の蓄積を図り、その成果を共有し発達段階に応じた指導法の向上を図る。
- 個々の児童の学習状況を把握し、指導や支援の方法の改善を図り、一人一人に応じた個別支援を充実する。(クロムブックの活用・個別指導に生かすスタディログの分析・活用 等)
- プログラミング教育の推進 (各教科におけるプログラミング的思考の実践)
- 外国語活動の充実
英語専科を中心とした外国語科を5, 6年70時間、外国語活動を3, 4年35時間、1, 2年8時間実施し、英語に慣れると共に学ぶことの楽しさを味わう。

- スタートカリキュラムの推進
入学児童に生活科を中心としたスタートカリキュラムを学校全体で取り組み、児童の主体性を育て、6年間の学校生活の土台としていく。
- 家庭との連携をとり、宿題や家庭学習の充実を図り、学習習慣を確立するとともにその価値を実感できるようにする。(児童の努力が自分で実感できるようにする。)
- 「サポート松仙」を活用し、地域や外部人材の教育力を生かした学習を展開し、本物体験を味合わせる。(授業サポート・漢字検定の実施)

(4) おもいやりいっぱい为学校

- 昨年度まで取り組んできた「リーダー・イン・ミー」の教育理念を学習・生活・特別活動など様々な場面で活用し、児童の自己肯定感を高めると共に、互いを尊重しあう態度を育てていく。(委員会活動・クラブ活動における主体的な態度の育成、校長による昼会講話 等)
- 松仙スタンダードの確実な定着を図り、節度をわきまえ、自主自律の精神を培う。
(学習や生活の様々な場面で声かけをし、意識付けをする。)
- 「特別の教科 道徳」を通し、道徳的価値を自分事として理解し、他者との関わりの中で多面的・多角的に深く考えたり、議論したりする道徳教育を充実させていく。
- 年間を通し「読書・学習の時間」を設定し、豊かな想像性・感性を育てる。
(読書学習司書や地域図書館・図書ボランティアの活用、読み聞かせやブックトーク)
- 展覧会(体育館を美術館に)を通し、自己表現の楽しさや喜びを味わう。
- ふれあい月間におけるアンケート、高学年アンケート(隔月)、スクールカウンセラーによる5年生児童全員面接等によるいじめの早期発見・早期解決の促進
- 特別に支援の必要な児童に対する指導・支援の充実(スクールカウンセラー、サポートルーム巡回指導教員との連携、特別支援教室の充実、外部機関との連携、等)

4 大田教育ビジョンにおける本校の関わり方(今年度の重点指導項目として)

プラン1「未来社会を創造的に生きる子供の育成【未来】」

取組⑤「健康増進・体力向上」

- ☆ 校内研究のテーマを「友達と高め合う児童の育成～できた・見方・伝え方の学習を通して～」とし、授業研究を進めていく中で、児童が自己の課題を明確にしなが、運動に取り組むことで、子供たちが体を動かす楽しさを感じ、生涯にわたって運動をする素地を培う。
- ☆ 児童が進んで自然と体を動かそうとするために、校内の運動環境の整備を行う。

プラン2「学力の向上【知】」

取組②「思考力・判断力・表現力」 取組③「主体的に学習に取り組む態度」

- ☆ クロムブックを活用した学習を各教科で展開し、学習の個別最適化や指導の個別化を図る共に協働的なまなびを構築していく。
- ☆ 生活科・総合的な学習(1単元70時間の学年カリキュラム)において、学びを創る力(思考力・判断力・表現力等)を高め、児童が進んで関わる力(学びに向かう力、人間性等)の向上を図る。
- ☆ 単元の始めに児童と一緒に学習計画を立てたり、毎時間の学習の見通しをもたせたりすることで、自己の学習課題を意識させ、主体的に学習に取り組む態度を育成する。

プラン3「豊かな心の育成【徳】」

取組③「主体性の育成」

- ☆ 授業や様々な教育活動において、リーダー・イン・ミーの7つの習慣のパラダイムを活用することで、「自分が自分のリーダーである」考え方を身につけ、児童の主体性を育てていく。
- ☆ 委員会活動やクラブ活動等において、児童が主体的に取り組めるよう学期ごとや年間の見通しをもたせながら、活動に取り組んでいく。
- ☆ 学級活動を充実させ、児童が意欲的に係や当番活動に取り組んだり、計画的に学級会を実施したりすることを通し、児童の主体的な態度を育成していく。

プラン4「体力の向上と健康の増進【体】」

取組①「体力の向上」 取組④「基本的生活習慣の確立」

- ☆ 体育・学級活動・休み時間を通し、自ら進んで体を動かす機会を確保し、体を動かす心地よさを感じさせ、生涯にわたって運動に親しむ素地を育てていく。
- ☆ 家庭との連携し、早寝・早起き・朝ごはんの取組を奨励し、基本的生活習慣の定着を図っていく。
- ☆ 栄養士や食育リーダーが中心となり、食育教育の充実を図り、バランスのよい食事や食生活の大切さに気づくと共に残菜率の減少に取り組んでいく。

プラン5「魅力ある教育環境づくり【学校・教職員】

取組②「教員の指導力の向上」 取組④「学校組織の活性化」

取組⑦「いじめ問題、不登校対策の充実」

学校における最大の教育環境は、日々子供たちを指導している教職員である。教職員一人一人が、自らの役割を自覚し、子供たちのために何ができるかを考え続け、実践していくことが学校全体の教育力を高めていく原動力となる。そのために以下の取組を通し、日々の教育活動を実践していく。

- ☆ 校内OJT：初任者教員の毎週の授業参観、放課後の指導、若手教員の会（わかめの会）自己申告授業や授業やりますコーナーにおける相互授業参観の実施し、互いの授業力向上に努める。
- ☆ 学年OJT：学級経営、生活指導、学習指導における若手教員の育成
- ☆ 高学年における教科担任制を実施し、より深い教材研究の下、指導力の向上を図る。
- ☆ ミドルリーダーの育成：若手教員の指導、主任会の活用を通しミドルリーダーを育てる。
- ☆ 学級担任だけでなく学年の連携を強め、組織として児童の指導・保護者対応を進めていく。
- ☆ 何のために？子供たちの為になるのか？さらにより良い方法はないかを常に問いかけ、職務内容の見直しを図る。教師の働き方についても見直し、ライフ・ワークバランスの取れた働き方が、教職員の心身の健康を保つことにつながり、子供たちの指導に生きていくことを意識する。
- ☆ 不登校児童への対応について、学年・生活指導部を中心にケース会議を開催し、ケースによっては外部機関・地域と連携して組織的に対応するシステムを継続する。

プラン6「学校・家庭・地域が一体となってともに進める教育」

取組①「地域とともにある学校づくり」 取組②「安心・安全な環境づくり」

地域の中から子供たちが登校し、地域の中で子供たちが育っていく。地域との連携・協働なくして、学校教育は成り立たない。開かれた学校づくりとして以下の点を推進していく。

- ☆ コロナ禍における教育活動の精選・充実を図る。できないではなく、どうしたらできるのかという視点をもって、教育活動を展開していく。
- ☆ 教育活動の情報発信
ホームページ積極的に更新し、日々の教育活動を発信していく。
学級・学年便りの定期的な発行。
- ☆ 保護者との連携の強化
保護者と話す機会、会う機会を大切にし、協働して子供たちを育てていく素地を築く。
(個人面談を5月と12月の年2回実施)
- ☆ PTA活動やおやじの会、地域との連携
ハロウィン&焼き芋パーティーや星空映画会、ふれあい久原運動会などイベントを通し、保護者と児童と地域、学校との繋がりを深めていく。(今年度の計画については、PTA・青少年対等と相談の上決定していく。)
- ☆ 学校公開と保護者アンケートの実施
年3回の土曜日学校公開を実施し、日々の教育活動を公開するとともに保護者アンケートを実施し、教育課程の改善を図っていく。
- ☆ 小中一貫教育の推進
地域の大森第十中学校、久原小学校と協力し、特別の教科道徳を中心とした授業交流や協議会を定期的に行い、小中連携を深めていく。
- ☆ 用具の安全な管理、準備、後片付け等、活動するための安全の場の確保の徹底を図る。
(体育・図工・家庭科等全授業において)
- ☆ 登下校の安全の確保・休み時間の遊び方の指導等、様々な場面・場所における安全面の配慮を行う。
- ☆ 創立70周年に向けて、校内組織を立ち上げ、PTAや同窓会とも連携しながら、周年行事の準備を行っていく。